

# みどりのこえ



発行 長野県環境保全研究所  
令和6年(2024年)3月20日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)  
〒381-0075 長野市北郷 2054-120  
TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929  
E-mail:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



次世代に受け継がれる地域の共創資産 (広島県雲月山)



## 草原を育てきた知恵と技術

草原は、いつも私たちのそばにありました。春に火を放ち、夏に風を感じ、秋にススキと戯れ、再生の季節を待ちながら冬を過ごす。当たり前のように繰り返される営みの中で、私たちは草原に働きかけ、草原から恵みを受けてきました。

これは、2009年9月に広島県北広島町芸北地域で開催された「第8回 全国草原シンポジウム」で採択された宣言冒頭の一節です。言葉のとおり、近年まで草原はとても身近な存在でした。

日本では、多くの場所で森林が成立する条件が揃っています。草原の成立には、牛馬の放牧や草の刈取り、屋根の材料としての茅刈りに加え、良い草を得るための野焼き管理などが不可欠でした。人里近くに残された草原は、人と自然が関わり続けて来た証と言えます。

ここで注目したいのは、関わりを「続けて来た」という点です。石油や鉱物のような地下資源は採掘により枯渇しますが、草資源は、毎年必要な量が草原から

供給されます。同時に人の関わりは、草原の多様な生物相や独特の景観も育ててきました。人社会への資源供給と、草原の生態系、ふたつの持続性を実現したのは、地域に受け継がれる知恵や技術です。草を刈る時期や方法、管理するための火入れの技術は、長い年月をかけた試行によって工夫され、地域に伝えられてきました。これこそが、草原と人との関わりが創り出した共創資産です。さまざまな分野で持続可能性が課題になっている今日、草原の里に残された共創資産は課題解決への大きなヒントを与えてくれるものです。

10月には、小谷村で第14回全国草原サミット・シンポジウムが開催されます。全国の草原関係者による活発な情報交換ができることを期待します。

文・写真 白川 勝信 しらかわかつのぶ  
全国草原再生ネットワーク理事  
共創資産研究所代表

### Contents

【巻頭言】 草原を育てきた知恵と技術 (白川勝信/全国草原再生ネットワーク理事) …	1
【特集】 草原の里 100選の取組みと全国の草原の里 …	2
信州の草原の里 霧ヶ峰(土田勝義/霧ヶ峰自然環境保全協議会) …	4
信州の草原の里 菅平高原・峰の原高原(田中健太/筑波大学) …	5
信州の草原の里 開田高原(田澤佳子/ニゴと草カツパの会) …	6

【特集】 信州の草原の里 小谷村(澁谷祥充/小谷村教育委員会) …	7
【Report】 山と自然のサイエンスカフェ@信州 …	8
【適応センター通信】 信州の気候変動対策・防災力を向上させるには …	9
「発酵食品」と「セミ」への気候変動影響調査を行いました …	10
【お知らせ】 令和6年度のイベント予定 …	12